

関係各位

東京学芸大学附属高等学校 校長 羽田 邦弘



東京学芸大学附属高等学校

第24回 公開教育研究大会 及び SSH 事業報告会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、本校では、第24回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

「生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント（3）～生徒エージェンシーをどう育て、どう評価するか～」
本校では、一昨年度から「生徒エージェンシー」の育成を主題として掲げてきました。昨年度は特に「教科間融合・連携」に注目し、どのように生徒エージェンシーを育むことができるか討論を深めてきました。今年度は「エージェンシー尺度」を用いた質問紙調査を実施すると共に、この尺度を授業分析の視点として、生徒エージェンシーを育む授業づくりについて研修を重ねてきました。そして本研究大会においては、生徒エージェンシーを育む授業づくりに加え、その評価の方法についても公開授業を通して議論を深めたいと考えています。

2. 日時・内容・場所

日時 令和7年11月29日（土）											
場所 東京学芸大学附属高等学校 東京都世田谷区下馬 4-1-5											
9:00	9:30 ～ 9:50	10:00 ～ 10:50	11:10 ～ 12:00	12:45 ～ 14:15	14:30 ～ 16:00	16:10 ～ 17:00					
受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	昼休み	研究協議会	休憩	講演会	休憩	SSH事業報告会

公開授業

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語科	言語文化 (小説領域)	若宮 知佐	古典と近代文学に 連続性はあるか	「羅生門」の授業で学んだ近代小説の技法を用いて既習の古典作品を近代小説にリライトする。さらにその活動を通して、古典と近代以降の文章との連続性と断絶について探究する。我々が用いている言語文化の特質の一端を知ること、自覚的な言語の使い手となる素地を育成する。
	言語文化 (古典領域)	喜古 容子 塚越 健一朗	説明されない古典	『伊勢物語』の「筒井筒」を扱う。『伊勢物語』の表現の簡潔さを活かして、生徒たちに登場人物の心情を想像させる。その際に古語の意味や古文常識に着目させて読みを深めていく。
SSH 地球科学 *地理総合と 地学基礎を 融合させた 学校設定教科	(分野：防災)	栗山 絵理	ハザードマップと減災 (仮)	「防災教育」は複数の教科・科目の学習指導要領でその必要が言及されている。本授業では、ハザードマップを活用し、日頃から生活圏を空間的に把握して、災害時には適切な行動を取る判断力を伸長したい。さらに、高校生ができる共助の姿勢を養いたい。
	(分野：国際理解、 大気・海洋)	松本 至巨 齋藤 洋輔	生活文化と地球システム ～SSH 地球科学による 教科融合の観点より～	今年度より SSH 地球科学の実践が始まり、カリキュラムの構築を日々進めている。本時では、地理分野の「生活文化の多様性と国際理解」、地学分野の「大気・海洋分野」の単元を題材に、生徒エージェンシーを育む観点から教科融合の様子を示したい。
国語科 +数学科 (教科連携)	文学国語 数学	日渡 正行 荻原 洋介	論説文を数学で読む	論説文は論理的文章である。数学は論理を学習する。数学の論理を用いて論説文を読むことで、解釈がどのように変化するのか、または解釈の整理ができるのか、その可能性を考えたい。

理科＋数学科 (教科連携)	生物基礎 数学	小境久美子 青山久美子	がん検診、何歳から？	がん統計の年齢階級別罹患率などのデータ分析を数学的な見方から、発がんのメカニズムを生物学的な見方から考える。それらをもとに、がん検診を身近な人に勧めたり将来自分自身が受診したりすることの根拠を考える。
理科	物理基礎	能代谷賢治	光の回折・干渉	複スリットによる光の干渉実験（ヤングの実験）を行う際、その実験結果と生成 AI を活用したプログラミングによるシミュレーションと比較・議論させる。これにより、成長マインドセットや批判的思考の育成を目指す。
保健体育科	体育	松川 想	チームで取り組む テニス学習（仮）	初めてテニスを行うことがほとんどの生徒を対象に、全 8 回の授業を行う。個人競技であるテニスを素材に、チームで学習し、「協同的な学び」につながるような授業を目指す。
芸術科	音楽Ⅰ	居城 勝彦	私の知らない音楽	自分が好きな音楽は、おそらく誰にでもある。自分が知らない音楽は、きっと誰にでもある。仲間と音楽室で活動できるのは高校生活が最後となる生徒たちと「知らない音楽」を知り、知らなかった背景にも迫りたい。
	工芸Ⅰ	神田 春菜	〇〇な場面で使用する 食器を提案しよう	この授業では「A 表現（2）社会と工芸」の題材を取り扱う。使い手にとって機能的であり、かつ使い手が美しさを感じる造形にするためにどのような工夫が必要か。制作した試作品と既製品を比較しながら分析する。
	書道Ⅰ	松原 直也	散らし書きを通じて	散らし書きは行の高低、行間の広狭の変化の学習等に留まることがあるが、より多角的な視点から学習できる。散らし書きを通じ幅広い視点から学習に取り組むことができるようにする。
家庭科	家庭基礎	野澤 風沙	「老いる」ことは、 「悲しい」こと？（仮）	本授業では、高齢化の現状と、それに伴う諸問題を扱い、高齢化による影響と支援制度について学習する。これらの知識をもとに、視聴覚教材を用いながら、高校生という高齢者を支える立場から、「老いる」ことの真髓について考える。
外国語科 (英語科)	英語 コミュニケーションⅡ	伊藤 賢佑	How can we find out if news is real or fake?	教科書本文を一度読み終えた後の言語活動として、同じ文章を用いたペア活動（内容に関するインタラクション）を実施する。繰り返し教科書本文にふれさせることで、より確実な内容理解や語彙・表現の定着を図る。

協議会 12:45～14:15

教科ごと、もしくは公開授業ごとに協議会を行います。

講演会 14:30～16:00

テーマ「エージェンシーを切り口にした授業の実践と評価」 講 師 木村 優 先生（福井大学 教育・人文社会系部門 教員養成領域 教師教育講座 教授）

3. 後援

東京都教育委員会（申請中）

4. 参加申込

公開授業および講演会への参加申し込み受付は、9 月下旬以降本校 HP（ <http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp> ）で行います。

問い合わせ先：東京学芸大学附属高等学校 研究部（研究推進） 齋藤・森安
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5 TEL:03-3421-5151(代)
E-mail:gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp